

## 11 技術科の特殊性

### 1 歴史的特殊性

①技術科は、その沿革を戦前の小学校の「手工」、「工作」あるいは「実業」、戦後の「職業」やその後身の「職業・家庭」、「図画工作」などに遡ることがきる。しかし「技術・家庭」として技術の名を冠した教科が初めて登場したのは1958年で、普通教育の教科としての歴史は比較的新しい。沿革に見られるように、成立までに複雑な経過をたどっている。②現行の「技術・家庭」は、その前身の「職業・家庭」の時期から目的や内容の異なる家庭科と結びつけられてきた複雑な性格をもつ教科である。

### 2 教科の存在構造的特殊性

①現行教育課程では、家庭科はとにかくとして、技術科は小学校と高等学校には存在せず中学校にのみ課されている教科である。このような教科は技術科のみで、これは技術科の存在様式の大きな弱点となっている。②技術科は、本質的には独立した教科であるにも拘らず、家庭科とセットにされて「技術・家庭」という一教科として扱われている。そのため、総務庁の行政監察においては小規模学校の場合でもそれぞれの教科につき最低限各1名の教員は必ず揃えるべきだとしていながら、「技術・家庭」については単一の教科として扱い、「技術」か「家庭」のいずれか1名いればよいとして矛盾を容認している。しかし学校現場では、技術科と家庭科とが1教科として位置づけられてい

る不自然さを緩和するために、通信簿では技術科と家庭科とに別個の評点をつけている場合が多い。

### 3 教育内容編成の特殊性

技術科では①ものを作ることによる達成感、成就感など、他の教科では得られない特殊性をもっている。②1989年改訂では共通必修とされていた電気学習が1998年改訂では選択領域にされたりするなど、内容構成の原理に動揺がみられる。③1998年改訂で必修とされたコンピュータ関係の教育内容には、技術教育とはいえない内容を含んでいる。コンピュータ関係の教育内容を技術教育として工夫することが重要な課題となっている。

### 4 条件整備の面での特殊性

①技術科は、種々の工作機械や多数の工具を必要とするなど、普通教育の課程における教科としては例外的に多様な施設設備を必要とし、また材料費が多額になることも他の教科の比ではない。それに見合う財政面での配慮が求められる。②技術科では、種々の工作機械や多数の工具を用いて加工する作業が多い。そのため安全管理がとくに重要となる。事故防止のためにも作業中の生徒たちへの教員による目配りが重要であり、そのため、通常学級を2分して指導する半学級編成による指導体制が求められている。

<参考文献>河野義頭・大谷良光・田中喜典『技術科の授業を創る』学文社、1999。

(佐々木孝)